

信濃川大河津資料館友の会だより

● 講座開催のお知らせ ●

・川の物語発表会

11月28日(土)「川の物語発表会」を行います。会員の方から川にまつわる発表をしていただきます。なお、発表者に若干余裕があります。発表希望者は事務局までご連絡下さい！

日時：11月28日(土) 13:30~16:30
会場：大河津資料館 2F 多目的ホール



昨年の様子

・W講演会、友の会活動を考える会

12月12日(土)W講演会「信濃川と大河津分水と私」、「友の会活動を考える会」を行います。第1部では河川功労者を受賞した早川会長と前信濃川大河津資料館長の碓井さんのお2人から信濃川と地域の関わりをお話しいただきます。第2部では平成21年度の活動を振り返り、平成22年度のイベントや資料館支援活動などを考えます。なお、講座終了後に懇親会を予定しておりますので、こちらもご参加下さい。

日時：12月12日(土)
第1部：14:00~16:20
第2部：16:30~17:00
会場：大河津資料館 2F 多目的ホール

講座への参加を希望される方は、【講座名・氏名・連絡先・参加人数】を友の会事務局までご連絡下さい(TEL.0256-97-2195 FAX.0256-97-2196)。定員に達し次第締め切らせていただきますのでご了承下さい。

ハクチョウ飛来中！！

今年も大河津分水にハクチョウがやってきました！今シーズンは10月6日に最初のハクチョウが確認されました。また、カモも多く見られるようになりました。寒くなるにつれて、大河津分水に飛来する渡り鳥も増えます。トモエガモやオジロワシなども飛来することもあります。ぜひ観察下さい！



平成21年10月6日撮影

イベント報告

俳句を楽しむ会

9月5日(土)「俳句を楽しむ会」を行い、田村紅子先生より講評していただきました。大河津分水を詠んだ句がたくさん出され、大河津分水にも芸術の秋が訪れました。また、当日詠まれた俳句をまとめた俳句集を作成しました。資料館内に掲示してありますのでぜひご覧下さい。



刈谷田川探訪ツアー

9月16日(水)「刈谷田川探訪ツアー」を行いました。平成16年に起きた7.13水害で破堤した刈谷田川の復興状況を視察してきました。



クリーン作戦・サケまつり・信濃川源流ツアー事前学習会

10月17日(土)に行った講座の様子を紹介します。

クリーン作戦では資料館周辺のゴミ拾いを行いました。空き缶やペットボトル、割れたビンなど、昨年と比べて大量のゴミがありました。会員の皆さんのおかげで大河津分水が綺麗になりました！



サケまつりでは大河津分水でとれたサケをサケ汁にして、おにぎりと一緒にいただきました。食材は会員の皆さんから提供していただき、友の会特製のサケ汁を振舞いました。

事前学習会では10月24日、25日に行われた信濃川源流ツアーの注意事項や行程確認を行い、スタッフが事前に登った甲武信ヶ岳の様子をスライドで紹介しました。



信濃川源流ツアー

10月24日（土）25日（日）に信濃川源流ツアーを行いました。1日目には海野宿、野辺山天文台を見学し、2日目の早朝にナメ滝コース、源流コース、山頂コースに分かれて登り、越後平野を潤す信濃川の始まりを見ることができました！



車内は笑顔で宴会も…？



野辺山天文台の一番大きな電波望遠鏡の下で記念撮影



装備を整え、さあ出発！



第一目標地点「ナメ滝」にて



小雨降る水源地



山頂踏破の精鋭6名

今号の可動堰

洪水期のため一時中断されていた本体工事も再開され、11月中には堰柱底部部にコンクリートの大量打設が行われます。約80台の生コンクリート運搬車が1日に延べ600台分のコンクリートの打設を行います。詳しい施工日、施工箇所については大河津可動堰情報館をご覧ください。

新可動堰完成に向けて、可動堰周辺の定点撮影を紹介します。



右岸堰軸から撮影
(平成21年11月13日撮影)



右岸堰軸から近景を撮影
(平成21年11月13日撮影)



スーツケースの重さ

友の会会員 五十嵐 晃

そのスーツケースをお預かりしたのは平成10年秋。宮本武之輔は18歳から亡くなる50歳までの間に22冊の日記を残した。可動堰補修工事に心血を注いだ4年間も詳細に記されている。本多静夫氏は宮本の企画院時代の部下で技術者運動の同志。日記を妻子に見せるのは一寸困ると、宮本の急逝以来手元に保管されていた。芸者丸子との交わりも詳しく記されていたからだ。大河津資料館で日記を預かるよう勧めてくれたのは作家の高崎哲郎氏。信濃川の一字をもらった宮本の次男信氏から了承をいただき、名古屋の本多氏を訪ねた。氏は当時101歳。毎日入社し狂言を一日一作つくる。夏には若い人たちとハワイで泳いできたと元気に話される。日記は、空襲など事ある時にいつでも運び出せるよう、スーツケースに収められていた。快諾いただき後日あらためて受け取りに行く。自ら持帰ると決めていたスーツケースをお預かりして辞去する際、氏は私達がエレベーターに乗るまで見送り、小さく手を振られた。宮本への別れであると直感した。寄稿いただいた「久遠の人 宮本武之輔写真集」(高崎哲郎監修)巻末エッセイには「今後はこの日記を宮本家でなしに大河津の人々に寄託したいと思う。それが本当だと思う」とある。2年後、氏の訃報が届いた。あのと時のスーツケースの重さを忘れることができないのである。



分水序章

友の会会員 濱田 敏子

ここを何度訪ねたことだろう。

桜の花の咲くころ

青葉のころ

水に草紅葉の映るころ

雪解けのころ

一度として同じかおを
みたことがない

花びらが風に舞い

桜の絨毯を敷き詰めた

川面に幾筋もの列が
速くなったり遅くなったり

緑風が木々の梢を走る

あちこちに緑陰ができる

花壇に色とりどりの花が咲く

川面は深緑になった

枯れ葉がかさかさ鳴る

風もないのに落ち葉が散る

蝉の声もいつの間にか消えた

川面に赤とんぼが追いかけて

中州に鴨の群れ

出たり入ったり忙しい

白いものが後から後から落ちてくる

もうすぐ一年が終わる

生まれたのは分水

地藏堂駅近く

汽車が通るのを

姉の背に負わわれて

いつまでも見ていた

ねんねこの裾が地に着きそう

たくしあげてもらって

姉の背に括り付けられて

その分水からまもなく転居した

物心がついたころ何回も聞かされた

その姉も今はいない

分水友の会と出会えたのも

自然のなりゆき

生まれ故郷に帰ってきた

新しい友に恵まれて

友の会の一員として

生まれた土地を再認識したい

私の分水 序章に入ったばかり

次のご指名は山口寿道さんと橋本誠一さんです。